

「金福童」その名を記憶する人になってください

2022年11月

宋元根（ソン・ウォングン）

映画「金福童」監督、ニュースタパPD

日本で映画『金福童』の上映会に足をお運びくださった観客の皆さん、こんにちは。私はドキュメンタリー映画『金福童』を演出した宋元根（ソン・ウォングン）です。このように日本の観客の皆さんにご挨拶する日を迎えて、本当に夢のようです。2019年8月、映画『金福童』が公開されてから年数では4年という歳月が流れました。本当にずいぶんと長い時間が過ぎました。昨

秋、やっと『金福童』上映会ができそうだという梁澄子・日本軍「慰安婦」問題解決全国行動共同代表のメッセージが飛び込んだ時には、どれほど嬉しかったか分かりません。上映会を実現するために日本の全国各地で物心両面にわたりご尽力くださった全ての方に心からの感謝を申し上げます。

映画『金福童』は、日本軍「慰安婦」被害者である金福童ハルモニの人生を描いた映画です。単にハルモニの人生を扱うことに留まらず、日本軍「慰安婦」問題を解決するた

ドキュメンタリー映画『金福童』川崎上映会

2023年3月25日(土) 14:00~16:30 (開場 13:30)

上映後トーク 梁澄子さん
日本軍「慰安婦」問題解決全国行動共同代表

お問い合わせ
TEL: 080-3494-2411
Mail: keikepeace@sand.ocn.ne.jp

前売り 800円
当日 900円
学生 500円

川崎市総合自治会館・ホール
(武蔵小杉駅前)

主催: 川崎から日本軍「慰安婦」問題の解決を求める市民の会/日本軍「慰安婦」問題解決全国行動



壮絶な生があり、希望に満ちた死があった。

その死を悼んで「女性人権運動家・金福童市民衆」には
5千人が集まった。人々はなぜそれほどまでに彼女を慕い、敬い、
その死を惜しんだのか。その理由が今、明かされる。
日本軍性奴隷の被害を乗り越えて、
人々に平和と希望の尊さを訴え続けた金福童。
韓国映画「金福童」は、その闘いの軌跡だ。

14歳で連行され、中国、シンガポール、インドネシア等の戦場
を連れ回された。1992年、周囲の反対を押し切って名乗り
を出た。2010年より、韓国挺身隊問題対策協議会(挺対協)の
シニスター「平和のウリテ(我が家)」で暮らして以降、その
発言と行動力で人権活動家と呼ばれた。2012年3月8日、
国際女性デーに古元玉(カル・ウォンク)・ハルモニとともに
「ナビ(蝶)基金」を設立。コンゴ、ウガンダ、ナイジェリア、
シリアなどの紛争地で性暴力被害に苦しむ女性や、ベトナム
戦争の時、韓国軍による性暴力被害に遭った女性たちを
支援。2015年の「日韓合意」には、「お金で歴史を売った」と
抗議し、政府を提訴するなど先頭で闘う。病に苦しみながら
も、朝鮮学校の子どもたちを支援しようと「金福童の希望」
基金を設立し、亡くなられる直前まで日本を訪れ子どもたち
の羽ばたきを助ました。



「決して諦めず、希望を掴みとって生きよう」

日本社会で続く少女や女性への暴力、性的搾取の根絶に頑張る方々にも
なる時、金福童さんを思い出す。金福童さんの勇気と愛を、諦めずに闘う姿を、
諦めてはいけない。諦めたら、なかったことになる。金福童さんは全身でそれを
教えてくれた。

(二森夢乃・一般社団法人 Coabo 代表)

長年に亘る安倍政権が強い絶望はどれほどのものだったか。それでも、金福童さん
は声をあげ、希望を掴もうとした。だから、私たちは諦めるわけにはいかないのだ。
金福童さんの最期の闘いを、影に 強く、残していこう。

(北原みのり・希望のたね基金理事)

金福童

監督：宋元根(ソン・ウォンガン)、製作年：2019年、上
映時間：101分、制作会社：ニュースタパ(2015年に「告白」
2017年に「共犯者たち」を制作した独立メディアです)

大阪 1/28 神戸 1/29 東京 2/4 京都 2/25 北海道 5/27

上映機会を開催したい方は
j_zencokukoudou@yahoo.co.jp へ。

めに活動したハルモニ
の足跡を通して、この
運動の27年という時間
を振り返ります。被害
者の痛みが発生した80
年前の悲劇的な状況に
集中する映画ではな
く、今も続く現在進行
形の物語を盛り込んで
います。

実際、私は金福童ハ
ルモニに出会う前まで
は、この問題について
深くは知らない人間で
した。ただニュースに
出て来る程度の情報だ
けに基づいて「深刻な
葛藤だな」と思う程度
でした。「2015日韓
合意」が発表された時
にも、ニュースで報道

されている通りに

「やっと合意がなされたんだな」と思った程度でした。おそらく韓国内の多くの既成世代が私と
同じように、よく分かってもらえないくせに分かった気になって生きていると思います。日本軍「慰
安婦」問題が直面した最も辛い側面は、まさに人々が分かっていると思い込んでいることにある
のではないかと思います。

映画は、金福童ハルモニの人生がわずか3カ月ほどしか残っていない時期に撮影を開始しまし
た。当時は金福童ハルモニの追悼ドキュメンタリーを製作するといった程度の考えでした。当
時、この映画を共同で企画した正義記憶連帯側から金福童ハルモニのこれまでの活動記録を資料
として受け取って中身を見ました。同時に、私が属している「ニュースタパ」というメディアの
データチームで、ハルモニのこれまでの活動記録を収集し調査しました。ハルモニの活動の中でど
の部分に集中すべきなのか決定する必要があったからです。

当時、ハルモニの活動を調べ始めた私は、映像の中から非常に特異なハルモニの姿を発見することになりました。それは2018年夏、東京で在日朝鮮学校の生徒たちに奨学金を手渡す会場で生徒たちを見たハルモニが涙を流す姿でした。嬉しくて泣いているのか、悲しくて泣いているのか分からないけれど、ハルモニは生徒たちの手をきつく握って涙を流していました。ハルモニはなぜ涙を流しているのだろうか？ それが、私がこのドキュメンタリーを製作する過程で最初に抱いた問いでした。

ハルモニは病床にあっても、自身の最後の財産を日本の朝鮮学校のために寄付しました。その理由が知りたくて、私は金福童ハルモニに質問しました。ハルモニはこう答えました。

「どういうわけか、あの子たちのことを考えると、ただ涙が出る」

しかし、私はハルモニの返事を聞いても、よく理解できませんでした。韓国にも厳しい生活をする人は多い、なのにあえて在日朝鮮人に手を差し伸べる理由が、当時の私には納得できなかったからです。そして、ハルモニのこのような気持ちや活動には、明らかに私には分からない理由があるのだと思うようになりました。それが何なのか、どうしても自分の目で確かめたいと思いました。ハルモニに涙を流させたその生徒たちに絶対に会わなければならないと思ったのです。ドキュメンタリーの最初の取材は日本に決めました。その理由が分からなければ、きちんと描くことはできないと思ったからです。

2019年1月、京都の「朝鮮中高級学校」を訪ねました。銀閣寺の脇の整備もされていない道に沿って上って行くと、見るからに劣悪な古い校舎が現れました。茂みの中に学校が現れたので驚きました。それだけでも在日朝鮮人の状況が感じられました。学校の裏手には前年夏の水害の跡が未だ整理されずに残っていました。先生方は予算が足りなくて仕方ないのだとおっしゃいました。日本政府の無償化教育政策から排除された朝鮮学校の現実が生々しく目に飛び込んできました。

そして、金福童ハルモニから奨学金を受け取った生徒たちに会いました。チマチョゴリの制服を着て、たどたどしい朝鮮語で話す姿が印象的でした。なんとかして朝鮮語を忘れまいと努力している姿が目にと焼き付きました。金福童ハルモニも、一言、一言を朝鮮語で語るこの生徒たちの姿を見たのだなと思うと、当時のハルモニの気持ちが感じられるように思いました。

すぐに生徒たちに、私が訪ねて来た理由を説明しました。末期癌で入院し目を開けることも厳しくなっているハルモニの病状について説明し、「あの子たちのことを考えると、ただ涙が出る」というハルモニの言葉も伝えました。そしてゆっくりと生徒たちを見渡すと、突然、熱いものが込み上げて目の前がぼやけてきました。必死に涙を堪えようとしたのですが、ある瞬間、涙腺が決壊してしまいました。私の突然の涙に、生徒たちは慌てたにちがいありません。けれども涙は止まりません。そんなふうに私はしばらくその場で泣いていました。

生徒たちの前に立ってやっと、ハルモニの「どういうわけか、ただ涙が出る」という理由が少し分かったような気がしました。その理由は、まさに目の前にチマチョゴリを着て立っている生徒たちだったのです。15, 6歳の少女たちがチマチョゴリを着て、日本語を話す人々の間でしんどく生きていかなければならない、その姿から、金福童ハルモニは自身の姿を見いだしたのではないのでしょうか。満14歳で戦場に連れて行かれた金福童ハルモニにとって、目の前のあどけない表情の生徒たちは、何をかけてでも絶対に守り抜いてあげなければならない存在だったのではないのでしょうか。「私は守ってもらえなかったけれども、あなたたちは私が必ず守ってあげる。二度と、私のような目には遭わせない」というハルモニの気持ちを、私は感じることができました。

その日以降、このドキュメンタリー映画『金福童』に対する私の姿勢は完全に変わりました。金福童ハルモニが感じられたであろう気持ちまで、観客にきちんと伝えなければならないという義務感に加え、必ず良い映画を製作しなければならないという責任感も生まれました。そして何よりも、「真心」を込めて映画を製作しなければならないと何度も心に誓いました。そのような意味で、当時の在日朝鮮学校生徒たちとの出会いは、この映画『金福童』の始まりであると同時に終わりでもあります。映画をご覧くださった皆さんには、私のこの言葉の意味がおそらくわかりいただけたと思います。

それゆえ映画『金福童』の日本上映は、私にとって本当に貴重でありがたいものなのです。一人でも多くの方がこの映画を見て、金福童ハルモニの名前を記憶し、その足跡を辿ってくださることを願っています。この映画は政治的な目的や、論争を生み出す目的でつくった映画ではありません。誰かを責めたり貶めたりする映画でもありません。ただ、「金福童」という一人の人間が自身の傷を克服する過程を紹介し、その過程を共にした人々の物語を観客に伝えます。これを通して今日を生きる私たちが日本軍「慰安婦」問題をどう受け止めるべきなのか、という問いを投げかける映画です。

「金福童」という名前を呼ぶ時、私たちはこの問題をありのままに記憶することができると思っています。より多くの日本の市民がこの映画を見て、感想を分かち合えること、そして映画が皆さんの真心に近づけることを願っています。映画『金福童』を見るためにわざわざ時間を割いて会場をお訪ねくださった観客の皆さん、心からありがとうございました。/ 以下は、川崎市での上映会





上映会:2023年3月25日(土) 14:00~16:30(開場13:30) 南武線武蔵小杉駅前・川崎市総合自治会館ホール



(当日の案内チラシから)

★壮絶な生と希望に満ちた死

14歳 (1941年) の時、日本軍「慰安婦」として強制連行され、中国、シンガポール、インドネシアなどの戦場を連れまわされた。あまりの辛さに自殺を図ったこともあったが、シンガポールで解放を迎え、米軍の捕虜収容所に収容された後、帰国した。1992年、日本軍「慰安婦」であったことを告白した金学順 (キム・ハクスン) ハルモニの行動を伝えるテレビを観て、周囲の反対を押し切り、日本軍「慰安婦」被害者であったと名乗り出る。1993年、ウィーンでの国連世界会議に参加して訴え、以来、人権のための多くの活動を行ってきた。2012年3月8日国際女性デーに、吉元玉 (キル・ウォノク) ハルモニとともに戦時性暴力被害に苦しむ女性のための『ナビ(蝶)基金』を設立。コンゴ、ウガンダ、ナイジェリアなどの紛争地で性暴力被害に苦しむ女性たちや、ベトナム戦争時に韓国軍による性被害にあった女性たちを支援し、世界の女性たちの平和の連帯をつくり上げてきた。

2015年の「日韓合意」には「お金で歴史を売った」と韓国政府に抗議して闘った。

★日本では、朝鮮学校の子どもたちを支援する『金福童の希望』基金を立ち上げ、奨学金をつくり

活動した。そして90歳になっても、ソウル・日本大使館前での水曜行動の場に立ち、発言を続けた。

こうして、日本軍性奴隷の被害者という苦しみを乗り越え、2019年1月28日に亡くなる直前まで人々に平和と希望の尊さを訴え続けた。

主催：川崎から日本軍「慰安婦」問題の解決を求める市民の会/日本軍「慰安婦」問題解決全国行動

